



【対応・配慮・目標の具体例やヒント】

このリストは、おおむね「場面緘黙児に困難が少ない項目順」に並んでいます。個人差はありますが、下記の項目順に改善していくことが多いようです。

支援に当たっては、担任や学校全体、家族の場面緘黙の理解が前提であり、また年齢に応じた本人の症状理解を進めていくことも大切です。

学校と家庭とが話し合い、子どもの気持ちや特性を考慮しながら、「本人の意見を聞く」「選択肢から選ばせる」「この方法でよいか、家庭で確認する」などしていきましょう。

メモしたものをしながら話し合うことをお勧めします。

(A) トイレ	①入学前に学校のトイレに慣れる ②放課後、保護者とトイレに行く練習（近くまでついて行き、徐々に遠くで待つようにする） ③決まった時間に先生から全員に声かけしてもらう ④決まった時間に先生から子どもに合図する ⑤校外で和式トイレの練習
(B) 登校	①心身の健康チェックとケア ②生活リズムの見直し ③不安の少ない学校環境 ④クラス理解 ⑤分離不安への対処（家庭で離れる時間を少しずつ増やす） ⑥早い時間帯に登校（人が多い教室への入室な場合） ⑦保護者と登校（他児や先生との交流を橋渡し） ⑧別室や保健室、放課後登校 ⑨校外学習や行事のスケジュール確認（図や写真の利用）
(C) 移動	①親しい友達からの声かけ ②手順やスケジュール確認（図や写真の利用も） ③家庭での行動レパートリーを増やす ④校外・校区外で参加できる活動を
(D) 給食	①偏食の確認 ②クラス全員が食べる前に減らせる方法の採用 ③家庭で献立表チェック（食べられそうなものを限定） ④保護者の同伴給食（教室・別室）

(E) 授業	①苦手領域への学習支援 ②宿題の量や質の調整 ③特別支援学級や通指導教室の検討・ついたてを用いた自立課題 ④外部の言語聴覚士等に相談 ⑤作文への支援（パターンの提示など） ⑥作品づくりについて、家庭への事前お知らせ・もちかえり ⑦提出方法・場所や時間の取り決め
(F) 休み時間	①教師から他児童に声かけ ②読書や絵を描く等好きな遊びの奨励 ③クラス理解（絵本や動画の活用） ④家庭で遊ぶ機会をもつ ⑤交換ノート ⑥筆談
(G) 身振り	①答えを求めず気さくに声かけ ②本児の興味や得意分野を話題に ③はい・いいえで答えられる質問 ④指さして答えられる質問
(H) 運動	①はじめ見学、家庭で確認してから参加 ②家庭で練習 ③前の人について歩くよう指示 ④動きのスタートを促す ⑤地面にラインや番号をふって移動 ⑥別の参加方法や役割 ⑦ついたてや別室での着替え
(I) 注目される中で動作	①「同じ意見の人は手を上げて」と挙手させる ②黒板にマグネットを貼らせる ③ノートで正答と確認してから複数で黒板に書かせる ④小グループの話し合いで、全員で付箋やホワイトボード使用 ⑤運動会は（全員が）手に何かを持って動作・手を繋いでの動作にする ⑥注目が少ない立ち位置（物の影や列の後方端） ⑦別の役割を与える（プラカードや旗を支える・物を持つ・ページをめくる等） ⑧息をつかわない楽器（→ホイッスルやリコーダーなど吹く楽器） ⑨ロパク ⑩筆談

(J) 友達と雑談	①家庭で遊ぶ機会をもつ ②校外で話せる友達をつくる ③親しい友達を近くの席に ④放課後、誰もいない教室で友達と遊ぶ ⑤小グループでの会話
(K) 先生と会話	①先生との交換ノート ②家庭訪問 ③家庭で録音の練習 →録音を先生だけに聞かせる ④電話で音読
(L) 注目される中で発話	①複数で音読させる ②先生（友達）が代読 ③録音をクラスで流す ④誰もいない放課後の教室や別室で音読 ⑤先生が近づき、ささやき声で発話 ⑥先生にだけに見える立ち位置で発話 ⑦全員にメモを書かせてから、順番に発表させる ⑧放送委員として台詞を読む